

横浜・健志台キャンパス

知と交流の 新たな拠点が始動



特集■学長・副学長・役職者メッセージ — 1

特集■日体大からつながる、広がる、夢と可能性
～「高大連携推進プロジェクト」の取り組み～ — 9

横浜・健志台キャンパス新校舎竣工 — 13

事務組織改編 — 14

令和6年度 教員採用試験合格者メッセージ — 15

日本体育大学同窓会～Nittai Alumni～紹介 — 16

令和7年度入学試験結果／役職者一覧 — 17

news & topics — 19

石井 隆憲
いしい たかのり

第13代学長

日体大の伝統を自覚し、自立した大学生になってほしい

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。今日から皆さんは日体大の一員です。私たちは心から皆さんを歓迎いたします。

また、在学生の皆さんは、一つ上の学年へと進級し、先輩としての自覚を新たにしているのではないのでしょうか。

さて、新学期を迎えるにあたって、私から新入生の皆さんに日体生になっていくための最も重要な点について、お伝えしたいと思います。在学生の皆さんは、すでに経験し、実践していることばかりだと思いますが、再確認の意味も込めて読んでいただければと思います。

1. 日体大は「挨拶」から始まる

1891年にルーツを持つ本学は、134年の歴史と伝統の中で身体を通して伝えられてきたことがいくつもあります。それは実技や実習の授業です。また、本学は昔から多くの在学生在がクラブ活動を行なっていましたが、そうしたクラブ活動の中でも、同様に重要な身体を形成する技法が多く存在していました。そうした伝統への入り口が「挨拶」です。

挨拶は人としての基本でもあります。本学を訪問する外部の方々には口々に「日体大の学生さんは、本当に挨拶が素晴らしいですね」とおっしゃいます。なぜなら、この挨拶が出来ない人が世間には多いからだと思います。仕事は会社に入ってから覚えれば良いことですが、挨拶に象徴されるような人としての基本は日々の生活を通してでしか身に付きません。

ただ、最近、私自身が感じていることですが、コロナを契機にして本学でも挨拶の慣行が薄れたように思います。新入生はもとより、在学生の皆さんも本学の伝統を復活していただきたいと思います。

ぜひ今日から挨拶の励行を実行していただきたいと思います。

2. 日体生は自己管理をする

大学生になると、生活のすべてを自分自身で管理することが求められます。朝起きて、大学に向かい、なかにはクラブの朝練習に参加し、そのあと授業を受講し、授業終了後にクラブ活動に参加したり、アルバイトを行ったりと、おそらく2カ月もすると、決まった時間に起きたり、一日の予定を確認して行動を開始するという日々のルーティンが定着するのではないかと思います。

行動を決定するうえで最も重要なことが、正確な情報を知ることです。本学では様々な連絡がn-passやメール、また授業に関する内容であるなら授業毎に伝えられます。これらの連絡は、自分自身で情報源にアクセスすることが必要です。情報を見逃したり、決められた期限までに対応しなければ、あとから取り返しがつかなくなることもあります。そうした失敗は、すべて自己責任となります。

そうならないために「日本体育大学アプリ」を携帯電話にインストールしてください。友人からの情報を鵜呑みにするのではなく、確認できることはアプリからn-passにアクセスして、連絡事項やメールなどを確認してください。ぜひ、自立した大学生になってください。

私たち教職員は、学生の皆さんが「日体大で学んでよかった」と思えるような環境を提供していきたいと思っています。皆さんも、楽しく、そして悔いのない大学生活を送ってください。私たちは、いつも皆さんを応援しています。

●Profile 石井 隆憲(いしい たかのり)

①日本体育大学大学院体育学研究科(S60.3)／②博士(社会学)東洋大学(H10.3)／③NPO法人日本チンロン連盟代表理事、元日本スポーツ人類学会会長。ミャンマー・スポーツ省客員研究員(H11.4～H12.3、H16.4～H17.3)としてミャンマーに赴き調査活動に携わる。／④剣道部でしたが剣道では芽が出ず、研究の道を志しました。そして私自身の生き方を変える「スポーツ人類学」という学問に出会いました。／⑤ミャンマーの伝統スポーツ、チンロンです。リフティングのようにボールを蹴ってパフォーマンスを競い合うスポーツです。私は日本代表の監督も務めており、国内でのさらなる普及を目指しています。



副学長(研究担当)兼 保健医療学部 学部長

なかざと こういち
中里 浩一

高等学校までの学習は文部科学省の学習指導要領で決められていました。しかし、大学では各大学の教育理念や目的に基づき独自のカリキュラムが編成されます。また、大学では常に教育や研究の見直しが行われ、日々更新されます。そのため、教育と研究は大学において車の両輪のように互いに支え合っています。

研究の世界に終わりはなく、ときに常識とされてきたことが見直され、新しい発見につながることもあります。研究と同じく終わりのない大学での学びは、あなたに新たな気づきと大きな喜びを与えることもあれば、自分の未熟さを自覚し落胆することもあるでしょう。もしあなたがそのような気持ちを抱いたなら、それは果てしない発見と試行錯誤、そして歓喜に満ちた研究の世界への第一歩を踏み出した証です。

●Profile 中里 浩一(なかざと こういち)

①東京大学教養学部基礎科学科第一(H4.3)、東京大学大学院総合文化研究科(H10.3)／②博士(学術)／③日本体力医学会(理事)、日本運動生理学会、日本結合組織学会(評議員)／④学部時代は友人と車中泊をしながら北海道旅行をしたりオートバイで日本中をツーリングしたりしたので思い出です。大学院以降の思い出は全て研究活動、とりわけ指導教員の先生をはじめとする研究室の皆様との昼夜を問わないディスカッションです。／⑤魚釣りや答えられるようにしたいです。



副学長(教学・学生生活担当)

やぎざわ まこと
八木沢 誠

我々を取り巻く社会・世界・地球が激変する中で、私たち日本体育大学は近未来に向けて教育・研究・社会貢献の高度化を図りながら、学生・教職員が一体となってこの混乱した時代を乗り越えていかなければなりません。

教育現場に目を向けてみると、我が国では2020年からの“GIGAスクール構想”により、小中学生には一人1台の学習用端末が配備され、ICT教育が実施されています。しかし大学においては、昨年度より保健医療学部においてDX化に向けた手法で授業が展開されていますが、提供する側も受け取る側もまだ納得できる成果は得られていないようです。学ぶ方法は変わっても学ぶのはあなた自身です。デジタルとアナログを駆使しながら、充実した学びを修めて欲しいと思います。

●Profile 八木沢 誠(やぎざわ まこと)

①日本体育大学大学院体育科学研究科(H2.3)／②修士(体育学)／③日本体育・スポーツ・健康学会、日本武道学会、スポーツ史学会、日本応用心理学会、日本運動・スポーツ科学学会、(一財)全日本学校剣道連盟常任理事、関東学生剣道連盟常任幹事、剣道教士八段／④大学入学と同時に剣道部に入学しました。当時は230名を超える部員がおり、秋田から出てきた田舎生はその多さに面食らっていました。同じ釜の飯を食った先輩・同級生・後輩たちとの縁はかけがえのない大切な財産となりました。／⑤掃除と園芸。最近は季節ごとに咲く花を育てることが楽しみです。草花の生命力に驚き、力をもらっています。



副学長(企画・管理・運営担当) 兼学友会長

みずの ますひこ
水野 増彦

本学は体育・スポーツの伝統校であると同時に体育・スポーツ系では唯一の総合大学です。その本学を取り巻く社会環境は大きく変化しています。こうした変化をチャンスと捉え、持続可能な発展に繋げていく更なる改革に取り組んでいるところです。

今、社会は日体大に学び、「日体魂」(日体スピリット)を宿した人材を求めています。「日体魂」は単なる言葉ではなく、努力・挑戦・仲間との絆を重んじる精神です。困難に立ち向かう勇氣、目標に向けて努力し続ける姿勢、そして仲間と共に成長する力、これらこそが日体大で得る財産です。スポーツを通じて学んだ「挑戦する心」「最後まで諦めない意志」「支え合う絆」はどんな分野でも活かれます。社会の中でこそ、あなたの「日体魂」を発揮し、自らの道を切り拓いていきましょう。

●Profile 水野 増彦(みずの ますひこ)

①日本体育大学体育学部(S58.3)／②体育学士／③日本体育学会、日本コーチング学会、関東学生陸上競技連盟理事、一般社団法人NITTAIクラブ理事長、日本陸上競技連盟強化委員(障害部長)歴任、関東陸上競技連盟評議員、強化委員歴任、文部科学大臣賞(H13/H15)、日本学生陸上競技連盟指導者功労賞(S63)、関東学生陸上競技連盟指導者功労賞(S63/H13/H15)／④当時の陸上競技部員は800名を超える大所帯でありました。仲間と共に励んだ日々は今でも忘れることはありません。仲間は全国各地にいて私の財産でもあります。日体大で培った「日体魂」は様々な事で役に立っています。／⑤地域貢献事業として地域の子供たちに陸上教室(正しい走り方等)を楽しく行っています。また、観葉植物や花を育てながら成長を見守るのも楽しみです。

大学での学びと研究の世界へようこそ

学修のすすめ

「日体大魂」を胸に社会で輝く人材へ

貴重な4年間を有意義に



体育学部 健康学科 学科長

よこやま じゅんいち
横山 順一

◆日体生に望むこと：大学での4年間は、あっという間に過ぎていきます。自分自身の未来を切り拓いていくための貴重な時間でもありますので、さまざまなことにチャレンジしながら有意義な学生生活を送ってもらいたいと思います。大学生としての自覚を持ち、年齢相応の言動や所作を身につけるとともに、国内外の社会情勢をしっかりと捉えながら積極的に自分の将来について考える機会を得ましょう。日体大には皆さんの学生生活を充実させるための環境が整っていますので、積極的に活用してください。

●Profile 横山 順一(よこやまじゅんいち)

①日本体育大学体育学部(S61.3)／弘前大学大学院医学研究科(R3.3)／②博士(医学)／③日本老年社会学会、日本応用老年学会、体力・栄養・免疫学会、日本社会福祉学会、日本在宅ケア学会、せたがや福祉区民学会(理事)、関東学生陸上競技連盟理事／④陸上競技部の中距離ブロックに所属。4年間の様々な経験が社会人になってから大いに役立ちました。／⑤陸上競技部での活動の傍ら、研究テーマとしている「健康寿命の延伸」を自ら実践するために、ゴルフ・釣り・料理などの趣味を通して仲間たちと楽しんでいます。

有意義な4年間を過ごしてほしい



体育学部 体育学科 学科長

おおもと ようじ
大本 洋嗣

◆日体生に望むこと：4年間は瞬間に過ぎてしまいます。充実した学生生活を送るためには時間の使い方が重要です。体育学科はスポーツ、健康のスペシャリストを目指すために、自らの目標に向かって挑戦できる場所です。授業はもちろんのこと、クラブなどにも積極的に参加し多くの経験を重ねてください。卒業する時に素晴らしい4年間を過ごしたと思うかどうかは皆さんの日々の行動にかかっています。頑張ってください。

●Profile 大本 洋嗣(おおもとようじ)

①日本体育大学大学院体育学研究科(H5.3)／②修士(体育学)／③日本水泳連盟水球委員会テクニカルディレクター、JOCナショナルヘッドコーチ、JOC強化スタッフ、リオ五輪、東京五輪水球男子日本代表監督／④水泳部水球ブロックに所属し1年時より日本代表に選ばれ競技漬けの日々でした。／⑤学生時代から数えきれないほど海外に遠征しているので、競技だけではなくその土地の文化や食事に触れ合うことが楽しみです。

スポーツによって社会に貢献する人材に



体育学部 学部長

の い しん じ
野井 真吾

◆日体生に望むこと：Society 5.0(超スマート社会)とされる社会では、いまほど身体活動が必要なくなると思うかもしれません。ただ、ヒトは動物です。動かなければヒトにも人間にもなりません。また、ヒトは人間でもあります。人間は家族や仲間と群れながら進化してきました。そう考えると、動くこと、群れることを制限してしまうような時代にこそ、体育・スポーツ・身体活動への期待はますます大きくなると思います。そのような社会的要請に応えられる日体生になってください。

●Profile 野井 真吾(のいしんじ)

①日本体育大学体育学部(H3.3)／日本体育大学大学院体育科学研究科(H14.3)／②博士(体育科学)／③日本体育・スポーツ・健康学会、日本学校保健学会(代議員)、日本教育保健学会(常任理事)、日本幼少児健康教育学会(副理事長)、子どものからだ心・連絡会議(議長)等／④学生時代は学友会サッカー部に所属し、練習がある日もない日も、四六時中サッカー部の友だちと一緒にいました。自慢できるような競技実績は何一つ残せなかったものの、かけがえのない思い出になっています。／⑤日ごろは、子どもの“からだ”にこだわった研究活動に従事しています。そのため、子どもの“からだ”については、おおよそんなどにも興味があります。

勇氣ある挑戦が、
新たな扉を開く



スポーツ文化学部
スポーツ国際学科 学科長

かねだ えいこ
金田 英子

◆日体生に望むこと：学生時代、青年海外協力隊のパフレットを手にしたとき、期待とともに不安も込み上げました。「本当に自分にできるのか？」——あきらめるのは簡単。でも、ほんの少し勇気を出して前に進めば、新しい景色が広がる。挑戦は、自分の可能性を広げる鍵。限界を決めるのは自分自身です。勇気を持って踏み出せば、道は開ける。迷ったときこそ、自分を信じて前へ。その一歩が、新しい未来を切り拓く力になります。

●Profile 金田 英子(かねだ えいこ)

①日本体育大学大学院体育学研究科(H2.3)／②博士(医学)／③大学院時代に青年海外協力隊(現・JICA海外協力隊、ネパール・体育)に参加。その後、タンザニア、タイ、ラオス、ガーナなどで国際保健学のプロジェクトに携わる。／④学生時代は陸上競技部に所属し、健志台や深沢周辺をよく走った。先輩に恵まれ、温かく指導していただいたことが思い出。／⑤協力隊での経験を活かした医療通訳が特技。趣味はグルメ・食べ歩きで、特にアジア各地での食文化探訪を楽しんでいる。

武道の精神を磨いて日々努力を



スポーツ文化学部
武道教育学科 学科長

こじま あらた
小嶋 新太

◆日体生に望むこと：武道は、技を磨くだけでなく、礼儀や忍耐、自己コントロールを学ぶ場です。また、学業と両立することで心と体のバランスが整い、大きく成長できます。稽古では相手を尊重し、自らを律することが大切です。困難に直面しても諦めず挑戦し続ければ、真の強さを実感できるはず。武道の精神を日常生活にも活かし、社会で活躍できる人材を目指しましょう。

●Profile 小嶋 新太(こじま あらた)

①日本体育大学体育学部(H10.3)／弘前大学大学院医学研究科(H21.3)／②博士(医学)／③全日本柔道連盟男子ジュニアコーチ(H20.4～H24.10)、全日本柔道連盟強化委員／④学生日本一になった際、部員全員でエッサッサを披露してもらった思い出は、今でも鮮明に記憶に残っています。／⑤ランニング

多様な文化を知り世界を変える人材に



スポーツ文化学部 学部長

おかで よしのり
岡出 美則

◆日体生に望むこと：人々は多様な期待をスポーツに込め、多様なスポーツ文化を生み出してきました。そのため、スポーツに関わることで多様な文化が見えてきます。また、スポーツが多様な価値を備えていることにより、スポーツの価値の実現を通して世界を変える人が求められています。多様化する日本においてスポーツという鏡を通す学部での学習を通して新たな自分を見つけ、新たな課題に挑戦する人材に育つことを期待しています。

●Profile 岡出 美則(おかで よしのり)

①筑波大学大学院修士課程体育研究科体育方法学専攻(S57.3)／②博士(教育学)／③日本体育・スポーツ・健康学会、日本スポーツ教育学会、日本体育科教育学会、日本教科教育学会／④大学時代はサッカーをし、ドイツ語学校にも通いました。大学院時代の同級生とはいつもいっしょにいたように思います。／⑤人に会うことが好きです。人が喜ぶ顔が好きです。言葉を学習することも好きです。

日体大生全員の飛躍と活躍を期待



スポーツマネジメント学部
スポーツライフマネジメント学科 学科長

こいずみ かずし
小泉 和史

◆日体生に望むこと：生命尊厳をテーマにいかなる事態においても人間愛に基づき、限りある生命をいかに充実させるかが最重要です。そのためには、何事も妥協することなく追及してほしいと思います。日体生の活力あるパワーがあれば、何でも取り組むことができます。その際は、「自己管理」、「バディ愛」、「チーム愛」、「日体愛」を理解したうえで、行動してほしいものです。日体生全員の飛躍と活躍を期待するとともに応援しています。

●Profile 小泉 和史(こいずみ かずし)

①日本体育大学体育学部(H1.3)／日本体育大学体育専攻科(H2.3)／日本体育大学大学院体育科学研究科(H16.3)／東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科(R2.9)／②博士(海洋科学)／③日本水中スポーツ連盟(副会長)、日本海洋人間学会(理事)、日本野外教育学会、日本水中スポーツ学会、日本体育・スポーツ・健康学会など／④ゼミナール活動(海洋ゼミ・アクアスポーツゼミ)において、スクーバダイビングを主としてサイパン、沖縄、伊豆、八丈島など先輩や同期の仲間と共に楽しんでいました。／⑤国内、海外を問わず、海、河川、湖沼の自然環境や温泉、飲料水などの「水」全般に関することに興味があります。

やり抜く力を伸ばそう！



スポーツマネジメント学部
スポーツマネジメント学科 学科長

あおやなぎ とおる
青柳 徹

◆日体生に望むこと：大学4年間の学び方で、みなさんの将来は決まると言っても過言ではありません。社会で必要とされる「やり抜く力」を伸ばすためには、まず、やるべきことの道標として、目標の設定が重要になります。目標が定まったならば、次に目標を達成するための努力を惜しまないことです。その努力は、時として失敗や挫折を伴うでしょう。しかし、その辛い体験を建設的に考えられる思考が大切であり、自分の能力は努力で変えられることを実感して欲しいです。

●Profile 青柳 徹(あおやなぎ とおる)

①日本体育大学体育学部(H3.3)／筑波大学大学院修士課程体育研究科コーチ学専攻(H15.7)／②修士(体育学)／③日本水上スポーツ学会(理事)、日本学生水上競技連盟(副会長)、日本スケート連盟ナショナルコーチ、文部科学省スポーツ功労者顕彰(H17/H26)、文部科学省国際競技大会優秀者等表彰(R5)／④辛いことも笑いに変わって、苦楽を共にしたスケート部の同期と過ごしたことの全てが良き思い出であり、人生の財産となっています。そして今も一生涯の友です。／⑤将棋観戦です。特に対局後の感想戦を見聞かしている時間はプロ棋士の思考に触れることのできる貴重なときです。また、サウナで整えるのは必須です。

AIが教えてくれないリアルな経験を



スポーツマネジメント学部 学部長

さいとう たかし
齊藤 隆志

◆日体生に望むこと：AIが人間の知能を超える日は近いと言われています。わからないことはスマホに尋ねれば何でも答えてくれます。しかし実社会での体験、それに伴うわくわくする気持ちや苦勞した思い出などをAIは教えてくれません。ぜひスポーツ指導、ボランティアやマネジメントなどのいろいろな経験のために現場に出てみましょう。学生時代の現場経験はAIでもかなわないみなさんの本当の力となるはずで

●Profile 齊藤 隆志(さいとう たかし)

①筑波大学体育専門学群(S63.3)／筑波大学大学院修士課程体育研究科(H2.3)／②体育学修士／③日本体育・スポーツ・健康学会、日本体育・スポーツ経営学会、日本スポーツ産業学会、日本体育・スポーツ政策学会、日本スポーツ協会総合企画委員会／④陸上競技部に所属し、2・3年生時に2年間ブロック長として部員をまとめ練習メニューを企画・立案していました。チーム成果を出すために創意工夫する貴重な経験ができました。／⑤アニメやコミックが趣味です。最近では「THE FIRST SLAM DUNK」を映画館で鑑賞して大変感動しました。わたしは仙道君のファンです。

次
な
る
高
み
へ

学生時代の成長は心構えと行動力次第

積極的に学び、考え、視野を広げてほしい



児童スポーツ教育学部
児童スポーツ教育学科 学科長

い な だ ゆ み
稲田 結美

◆日体生に望むこと：人生全体から見れば、学生時代はわずかな時間にすぎません。しかし、この時間に何を得心か、どれだけ成長できるかは、個人の心構えと行動力次第で大きく変わります。これまで関心のなかったことにも目を向けてみてください。新たな視点、価値観、考え方にふれて、自分の世界が広がるはずです。そして、スポーツや教育、子どもなど、情熱を傾ける領域については、自ら課題を発見し、追究してください。皆さんが子どもたちの未来を育む先導者となることを期待しています。

●Profile 稲田 結美(いなだ ゆみ)

①日本女子大学理学部(H10.3)／筑波大学大学院修士課程教育研究科教科教育専攻(H12.3)／②博士(教育学)／③日本理科教育学会(理事)、日本科学教育学会、日本教科教育学会(理事)／④学部時代は化学実験に明け暮れ、データとらめっこをする比較的孤独な日々でした。一転して、大学院では研究室の仲間とたくさん議論をし、学会発表や合宿などで様々な場所に一緒に出かけ、人との交流を存分に楽しみました。／⑤専門である理科教育とも関わりますが、科学館・博物館・水族館・動物園などに行くのが好きです。最近は、世界の珍しい料理や食材を探すことにもはまっています。



児童スポーツ教育学部 学部長

す な が み か こ
須永 美歌子

◆日体生に望むこと：日体大生は、真面目で純粋、そしてひたむきに努力する才能に優れています。その才能はスポーツだけでなく、様々なところで活かすことができるでしょう。大学生時代の過ごし方は、その後の社会人生活にも影響を与えます。多様な人と交流し、積極的に学び、考え、視野を広げていただきたいです。自分の可能性を信じ、高い志をもって色々なことにチャレンジしてほしいです！

●Profile 須永 美歌子(すなが みかこ)

①日本体育大学大学院体育科学研究科(H10.3)／②博士(医学)／③日本体力医学会(理事)、日本トレーニング科学会(監事)、日本運動生理学会、日本スポーツ栄養学会(評議員)、日本陸上競技連盟科学委員会委員／④陸上競技部に所属し、合宿所生活を送っていました。一方で、大学院生の実験を手伝うなど、研究活動にも取り組んでいました。部活動・ゼミ活動の両方ともすごく楽しくて充実した毎日でした。／⑤これといった趣味はありませんが、人と話をすることが好きです。様々な事柄に対する考えを聞くと、多くのことに気づかされます。学生さんともたくさんお話をしたいです。

体育・スポーツ・健康の未知の世界へ



大学院研究科長代表

せ き ね ま さ み
関根 正美

◆日体生に望むこと：真理を探究することは人間に与えられた大きな希望の一つです。大学の学部・大学院で競技生活、授業、日々の勉強の中で体育・スポーツ（とは限りませんが）の「謎」に出会ったら真理探究のスタートラインに立っています。それは教員・学生、上級生・下級生関係なく誰にでも平等に訪れます。体育・スポーツ・健康の世界は未だ謎だらけで、それらは私たちによって解明されるのを待っています。この大学で、日体生の皆さんが謎に出会えますように。

●Profile 関根 正美(せきね まさみ)

①早稲田大学第二文学部西洋文化専修(S63.3)／筑波大学大学院体育科学研究科体育科学専攻(H8.3)／②博士(体育科学)／③日本体育・スポーツ・健康学会(理事)体育哲学専門領域(副代表)、日本体育・スポーツ哲学会(会長)、日本ヤスパス協会(理事)、International Association for the Philosophy of Sport／④他大学でしたが卓球部に所属し練習の毎日でした。4年生の春リーグで4季連続最下位を脱した時と4年秋で全日本の予選を初めて通過した時の嬉しさは今でも忘れません。／⑤旅行などで訪れた街の本屋に入り、記念に何か1冊買うことを楽しみにしています。日本語の本でも外国語の本でも、ページをめくっていると街の記憶が甦ってきます。

出合いを大切に、果敢にチャレンジを



保健医療学部 救急医療学科 学科長

ま す の と も ひ こ
増野 智彦

◆日体生に望むこと：大学は、新しい師と出合い、新しい友達に触れ、新しい自分を発見し、これからの自分の可能性を伸ばす場所です。自分の置かれた環境を理解し、自分にできることは何かを考え挑戦を続ける。それはスポーツにおいても医療においても変わりありません。社会に出て真に役立ち、活躍できる人材になるために、学生時代にどんどん新しいことにチャレンジし、友達と語らい、多くの事を感じてほしいと思います。皆さんの学生生活が充実したものになることを願っています。

●Profile 増野 智彦(ますの ともひこ)

①徳島大学医学部(H6.3)／②博士(医学)／③30年以上「命の最後の砦」である救命救急センターで重症患者の救命救命治療に従事してきました。また、能登地震や東日本大震災などでは発災早期から災害現場で被災者対応を行い、またオリンピックやサミットなど大規模イベント時の医療対応を行ってきました。／④学生時代は競技スキー部に所属し冬はスキー場で、夏は山や川をフィールドにカヌーやキャンプをしながらアウトドアライフを楽しんでいました。／⑤スキー・キャンプ・フライフィッシング

体育・新時代をリードする積極的な挑戦を



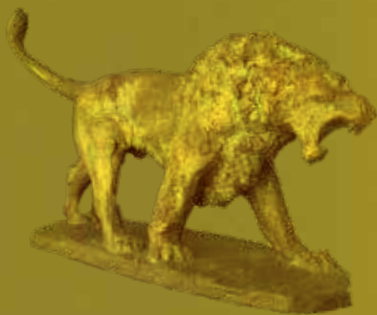
保健医療学部 整復医療学科 学科長

く ぼ や ま か ず ひ こ
久保山 和彦

◆日体生に望むこと：「柔道整復術」は、柔術家が用いていた「活法・接骨術」が起源となる医術です。大正期において接骨術は活法から分岐して「柔道整復術」となりました。日体生の皆さん、身体活動や競技を通じて得た「実践的知識」を基に、柔道整復の知識を重ね合わせて、国内外の体育・健康・医療・福祉などの分野に向けて、これまでにない新たな風を吹き込むことができるように挑戦してください。

●Profile 久保山 和彦(くぼやま かずひこ)

①日本体育大学体育学部(S61.3)／日体柔整専門学校／放送大学大学院文化科学研究科／②修士(学術)／博士(体育科学)／③日本体育スポーツ健康学会、日本運動スポーツ科学会、日本武道学会、日本柔道整復接骨医学会、日本医学教育学会、日本疫学会、日本体力医学会、日本登山医学会／④屋は日体大柔道部で柔道を学び、夜は(現)日体医療専門学校で柔道整復術を学びました。日々「殺法・活法」の修得に没頭しました。／⑤古今東西の「人間」に関わる社会・文化情報を把握することで「日本人とは、」を問うております。常に体験を先行させた「実践知」を集積しています。



キャンパスの変遷

日体大のキャンパスは、教育・研究・トレーニング・地域貢献・国際交流などの多様な機能を有している。そして、時代とともにそのあり様は変化してきた。

1891（明治24）年、国民体育の振興を目的に、東京市牛込区に体育会（翌年、日本体育会に改称）が創立された。そして1893（明治26）年、本学の前身である日本体育会体操練習所が設置され（東京市麹町区）、体育教員養成の役割も担うことになる。

体操練習所は後に日本体育会体操学校と改称され、1904（明治37）年に、東京の中心部を離れて東京府内荏原郡大井町に移転した。ちなみに、荏原中学校（現…日本体育大学荏原高等学校）は、1905（明治38）年に開校している。

そして昭和になると、各種学校としての体操学校を専門学校へと昇格させ、さらに大学を目指そうという声が高まっていく。キャンパスが手狭になったこともあり、体操学校は1937（昭和12）年に世田谷区深沢の現在地に移転し、1941（昭和16）年に念願の日本体育専門学校を開校する（日本体育会体操学校からの昇格）。しかしその後、戦禍により、

茨城県土浦市に一時移転を余儀なくされた。

戦後、1949（昭和24）年、新制大学として認可され、日本体育大学が設立される。世田谷区深沢への復帰が実現したのは1951（昭和26）年である。これを機に、体育・スポーツの総合大学として歩み始める。

1964（昭和39）年の東京オリンピックを弾みに、時代の要請に応えた教育研究体制・施設の整備が加速する。1971（昭和46）年に横浜・健志台キャンパスのグラウンド開きが挙行され、1979（昭和54）年から横浜・健志台キャンパスで本格的に授業が始まった。トップアスリートや指導者育成、運動施設、運動部の拠点がさらに強化された。

2012（平成24）年には東京・世田谷キャンパス再開発が竣工し、「身体にまつわる文化と科学の総合大学」として、学生、関係者、地域社会をはじめ、すべてのステークホルダーに開かれた新しい形のキャンパスが誕生した。横浜・健志台キャンパスでは、今春「アカデミック・コア棟（仮称）」が竣工し、再開発が進められている。

学生生活の一層の充実と、健康で豊かな社会を築くため、キャンパスは進化を続けている。



体操練習所時代（後に日本体育会体操学校と改称）
東京市麹町区飯田町



日本体育専門学校時代
世田谷区深沢



東京・世田谷キャンパス（現在）



横浜・健志台キャンパス（新校舎）

日体大を
極める
Episode 17

日体大からつながる、広がる、夢と可能性

～「高大連携推進プロジェクト」の取り組み～

大学進学を単なる進路ステップとせず、高等学校と大学が連携し、主体的で深い学びを実現できる体制が求められています。

高大連携には、生徒の可能性を広げ、なおかつ大学と高等学校の教育の充実を図る成果が期待されています。

本学の「高大連携推進プロジェクト」の取り組みについて、高大連携推進プロジェクト各委員より報告します。



浜松日体中学校・高等学校
校長 杉本 芳和

日本体育大学桜華中学校・高等学校
校長 牛来 峯聡

日本体育大学
学長 石井 隆憲

日本体育大学荏原高等学校
校長 渡邊 健

日本体育大学柏高等学校
校長 氷海 正行

高校現場に日体大の「いま」を 発信するプロジェクト

本学の「高大連携推進プロジェクト」は、令和5年12月12日に石井隆憲学長により、高等学校との繋がりを強化し、高校生、保護者、高等学校の教職員に、日体大の「いま」（学部・学科の特色）を理解していただくことを目的にプロジェクトが設置されました。プロジェクト設置から約2週間後の12月27日には、教員6名、職員7名の13名のプロジェクトメンバーにてキックオフミーティングを開催しました。

本プロジェクトは、これまでも実施されてきました本学と同一学校法人である日本体育大学荏原高等学校、日本体育大学桜華高等学校、日本体育大学柏高等学校、浜松日体高等学校の併設校4校との二層の連携強化と併設校以外の高等学校との連携の2つの高大連携事業について検討を始まりました。

令和6年1月のミーティングでは、学校法人日本体育大学のワンファミリーの考え方に基つき、併設校入学予定者を対象に併設校出身という誇りを胸に充実した大学生活及びキャンパスライフを過ごしてもらえるように「併設校入学前研修会」実施を検討し、2月6日、9日、13日の3日間の研修会を開催しました。本プロジェクト開始から約1カ月間と短い準備期間でしたが、プロジェクトメンバーの一致団結したチームワークだけでなく、法人事務局設置校支援課に加え併設校の教職員のご協力により研修会を開催できました。ちなみに研修会前日の2月5日は夕

方から大雪でした。生徒を迎えるために翌6日のまだ日が昇る前から除雪作業にお手伝いをしてくださった皆様への感謝は忘れられません。

また、本プロジェクトは、併設校以外の高等学校との連携協定内容として、教育及び進路状況に関する情報交換を行うことや、出張授業や大学説明会の開催などの検討から始めました。さらに、連携協定に向けて本学への進学希望生徒が多い高等学校を中心にプロジェクトメンバーが高等学校を訪問し連携協定締結に向けた活動も始まりました。

（大石健二、勝田真也、半谷信也）



日体大生のキャンパスライフを先取り ～併設校入学前研修会～

《令和6年報告》

キャンパスライフへの期待が膨らむ

令和6年2月6日(火)、9日(金)、13日(火)

の3日間にわたり、併設校からの入学予定者(現大学2年生)を対象とした入学前研修会を実施しました。この研修には、日本体育大学荏原高等学校152名、日本体育大学桜華高等学校34名、日本体育大学柏高等学校53名、浜松日体高等学校16名の計255名が参加しました(二部リモート参加あり)。

1日目の研修会はオリエンテーションから始まり、学友会の紹介、日体大のアスリート支援体制の説明、併設校出身の教職員による談話会、体験授業「大学での学びとは？」を実施しました。生徒たちは、これらのプログラ

ムを通じて高等学校とは異なる大学の学び方に理解を深め、新たな大学生活を具体的にイメージできたことと思います。

2日目は、歌唱指導で日体大の校歌を歌い、一体感を醸成した後、グループワーク「部活が学校から地域に移ったらどうなっちゃうの?」(中高生のスポーツの未来)を実施しました。このグループワークでは、スポーツの未来について活発な議論が交わされ、生徒たちは多角的な視点から課題を捉えることの重要性を認識しました。

最終日、「先輩に聞いてみよう」大学生活における目標設定に向けて」と題したプロゲ

《令和7年報告》

進学後のイメージが具体的に

令和7年2月6日(木)と7日(金)の2日間

にわたって、日本体育大学併設校入学前研修会を実施しました。この研修には、日本体育大学荏原高等学校163名、日本体育大学桜華高等学校43名、日本体育大学柏高等学校78名、浜松日体高等学校12名の計296名が参加しました。

午後のプログラムでは、参加者が入学後に所属する予定である学部や学科に分かれて、それぞれ特徴的な内容のプログラムを体験しました。プログラムの最後には、両日合わせて22団体の部活動紹介が行われ、学生生活をより具体的にイメージできる機会が提供されました。

体育学部体育学科のプログラムでは、白井健三助教が進行を担当。テーマは「マングラチャートを用いた目標設定」でした。生徒たちは大学入学後の生活をイメージし、マングラチャートに穴埋めをしていくことで、具体的な目標を設定しました。中には進学後の生活がうまくイメージできず、目標が定まらない生徒も見受けられましたが、他校の生徒と相

談し合い、コミュニケーションを取りながら進める姿が見られました。これにより、主体的に目標を設定する力が養われたと言えます。

プログラム中には、生徒たちから多くの質問が飛び交いました。会場は活気に満ち、生徒たちが大学生活への理解を深める様子がかがえました。

最終的には、授業に関する質問にとどまらず、学友会活動やプライベートでの目標など、さまざまな領域にわたって目標を設定することができ、進学後の大学生活に対するイメージが明確化される結果となりました。生徒たちは手探りの中で、理想の実現に必要な要素について主体的に学び、有意義な時間を過ごすことができたと感じました。

(白井健三、玉ノ井康昌)

(白井健三、葛西愛、秋山峻)



日体ファミリーの高校生たちがリアルに体験 ～上級学校訪問～

日本体育大学荏原高等学校

令和6年7月22日(月)、日体大への進学を希望する2年生を対象に、東京・世田谷、横浜・健志台の両キャンパスの見学会が開催されました。参加した生徒は200名以上と、実施した併設校4校の中で最大の規模となりました。今回は両キャンパスの施設見学並びに、大学の教員が行う模擬授業を受けることがプログラムの中心になります。関芽准教授(児童スポーツ教育学部)の「大学って役に立つ場所なの?」という模擬授業では、「大学での学びは、強制されるものではなく、それぞれの可能性を引き出すために自由なものであるという印象を受けた」という感想や、高荷英久准教授(スポーツマネジメント学部)の「野外活動のこれから」という講座からは、「日体大で学べることは、いわゆる競技スポーツだけでなく、キャンプを学ぶ授業もあり、スポーツの広がりを知った」という参加者からの声が印象的でした。また学内施設見学では、「健志台の門から野球場までの距離に驚いた」という感想がありました。模擬授業と合わせて、よく知っているはずの日体大の新たな一面を知った見学会になったようです。

(福井元准教授)



日本体育大学柏高等学校

令和6年7月11日(木)、日本体育大学柏高等学校の生徒80名たちにとって、併設校である日本体育大学はどの様に見えたのでしょうか。令和5年度より実施されている高大連携プロジェクトの関係者として柏高等学校の生徒を迎えた時に感じたことでした。ほとんどの生徒が大学のキャンパスを訪れたことがなく、スポーツの成績によっては他大学に進学する生徒数も多い併設校となります。特に、初めて横浜・健志台キャンパスを訪れた生徒が多く、施設の広さやスポーツ環境の整った様子に驚いていました。ここは他大学と比較される大きなポイントとなりますので、できる限り全ての施設を回るよう計画をしました。

午後の模擬授業では「体育・スポーツ」の知識を世界で広く活用してほしいという内容の講義を行いました。本学で学ぶ知識が世界で求められていること、その知識が仕事になることをあらためて考えてもらいたい機会になったと思います。

生徒たちの頭の中に「あれ、日体大もいいかな」という考えが浮かんでくれているのであれば、今回の学校訪問が良いきっかけになったのではないかと思います。

(竹腰誠教授)



日本体育大学桜華高等学校

令和6年6月25日(火)、2年生120名、3年生12名が、東京・世田谷キャンパスを訪れました。『日体大ってどんな大学?』、『大学での学びとは?』、『社会で活躍する先輩』などの講座を受講後、桜華高等学校出身の日体大生らが案内役となり、グループに分かれて施設見学を行いました。見学の途中では、クラブ活動の様子も見ることができました。ダブルダッチを披露する日体大生に向ける、驚きと憧れの眼差しが印象的でした。

社会で活躍する先輩としてお招きした、区立保育園で保育士としてご活躍の卒業生(桜華高等学校および本学を卒業)は、「もともと子どもが好きだったことに加え、運動が大好きだったので、運動遊びが得意な保育者になりたい」と思い、今の職業を選んだそうです。岡本美和子教授(児童スポーツ教育学部)との対談からは、「仲間と励まし合いながら努力することの喜び」、「自分が好きなことを伸ばしていくための学部選びの大切さ」、「友達や先生方を信頼して学生生活を送ることの楽しさ」などを感じ取っていた様子が見え、一人一人が自分の進路について真剣に考える貴重な一日となったようです。

(杉本直美教授)



浜松日体高等学校

令和6年7月9日(火)、2年生5名を対象に横浜・健志台キャンパスにて保健医療学部教員による2つの講座を実施しました。

第1講座では、服部辰広准教授(整復医療学科)が「柔道整復師の活躍の場と整復医療学科の現状について」をテーマに資格や学科の概要について説明されました。実際の肘関節脱臼の動画を提示した際には生徒の皆さんは驚きながらも、柔道整復師の業務について理解を深めていました。さらに、資格取得後の進路として、接骨院や整形外科に加え、スポーツ関連企業への就職の可能性についても紹介がありました。

第2講座では、原田諭助教(救急医療学科)が「スポーツと医療を担う救急救命士の役割と活躍」と題し、資格や救急救命処置の概要、卒業生の活躍状況、VR教材や視線分析装置のアイトラッキングなどの最先端機器を活用した学習環境について紹介され、さらに心肺蘇生法や気管挿管、静脈路確保なども体験していました。

この見学会を通じてスポーツと医療の密接な関係やその必要性について学ぶ良い機会になったと思います。

(松田康宏教授)



昨今、高等学校や大学のホームページには、高大連携協定締結の記事が増えています。大学に進学する前に、高校生が大学の授業を体験できる、また大学の教職員が高等学校に向く出張講義を受講できるなど、高等学校と大学が交流を深める取り組みとして「高大連携」が加速していると言えます。

本学も、進学希望生徒が多い3校の高等学校と連携協定を結ばせていただきます。高等学校と大学、相互の正課授業および正課外活動の交流を通して、大学で学ぶ内容や雰囲気や早期に体験し、生徒の大学進学に関する意識や学習への意欲を高めるとともに、本学の教育内容や強みを理解していただくことが目的です。お互いの教育ビジョンを深く理解しあつた高等学校・大学との間で連携協定を結ぶことは、生徒の希望に合った大学選択、そして学部・学科選択にも繋がります。また、生徒の進路選択におけるミスマッチを防ぐこともできると考えています。

具体的な教育交流・連携の内容は、高等学校に本学教職員が出向く出張講義や大学説

日体ファミリーの枠を超えて、さらなる高大連携を構想

明会の実施、生徒が日体大に来るキャンパス見学会や講座の受講などが挙げられますが、他にも体育・スポーツに興味がある生徒の進路選択肢を広げるきっかけになるような取り組みを連携協定先の高等学校の教員と考えていきたいと思っています。また、体育大学である本学の強みも活かし、部活動などの課外活動を通して生徒と学生の交流を深める取り組みも目指していく予定です。

高大連携は、本学にとっても大きなメリットがあります。高等学校との連携を深めることで、高等学校教育の現場を知り、大学教育の改善に繋げることが出来ます。生徒のニーズや課題を把握し、より魅力的な教育プログラムの開発に役立てたいと考えています。

「高等学校」と「大学」が一緒になつて、「生徒」「学生」を育て、ともに成長し、社会に貢献できる人材を育成することこそ、本学が望む高大連携の姿です。今後も高大の「繋がり」の輪を広げ、日体大の魅力を生徒、保護者の皆様に伝えていきたいと思っています。

(藤澤英雄、福田広美)

本プロジェクトは、設置から約1年しか経っていませんが、紹介した併設校以外の高等学校に対する大学見学会など多岐にわたる活動を展開してきました。

とは言え、この1年間は併設4校に対するプログラム実施が主な事業でありました。大学ならびに法人事務局設置校支援課としても、併設校4校から日本体育大学へ進学する生徒が年々増加している状況を踏まえて、高校1年生より3年間を通じた段階的かつ計画的なプログラムの実施により生徒の円滑な大学生活への移行の支援の一助になればと思っています。具体的には、生徒だけではなく保護者の皆様への大学情報提供、オープンキャンパスへの参加、そして生徒同士の交流を深める入学前研修を検討しています。これらの取り組みにより、日本体育大学をより深く理解し、自分の将来を見据えた学部・学科の選択、明確な目標の設定ができ、充実した高校生活に加え、大学進学後のリーダーとして力量を発揮する学生へと成長することを期待しています。

併設校4校は各学校、異なる

より多くの高校生・教員・保護者の皆様へ 日体大の魅力を伝えていきたい

る特徴を有しております。そのため、この1年間で併設校4校を対象に実施したプログラムから多くの経験知を得ることができました。これは本学の強みだと思っています。今後は、この経験知を併設校以外の高大連携校との実施プログラムに活かしたいと考えています。併設校以外の連携校の生徒にも、各学校の特徴を活かしたプログラムを実施することで、より豊かな高校生活の実現、さらに高校卒業後の進路決定や社会での活躍に繋がればと考えています。

本プロジェクトは、令和7年4月からプロジェクト長が大石健二(体育学部)から竹腰誠(スポーツマネージメント学部)に交代します。プロジェクト長は交代しますが本プロジェクトは、各高等学校の特徴に適した連携内容を検討して実施し、より多くの生徒に日本体育大学の魅力を十分に伝えることを目指してまいります。各高校と強い絆で協力し合い、相互にとってより有益な連携になるよう努力する所存です。是非、多くの方からのご意見ならびにご助言をお待ちしております。

(竹腰誠、竹原勝博、葛西愛、大石健二)



本学では、横浜・健志台キャンパス再開発整備の一環として、旧4号館跡地に新校舎の建設を進めてきました。

このたび「アカデミック・コア棟(仮称)」が完成し、4月から運用が開始されました。

新校舎は地上7階建てで、横浜・健志台キャンパスのほぼ中央に位置し、まさにキャンパスのランドマーク的な建物となります。

新校舎には1階に学生食堂、コンビニエンスストア、2階に学生サポートに係わる事務室、3階に日体ミュージアム、3階から6階に教室や研究室、最上階には図書館が配置されます。

さらに、地域交流・防災の拠点としての整備も進めます。新校舎の学生食堂や図書館は一般にも開放されるほか、キャンパス内には防災シェルターや耐震性貯水槽、ソーラー街路灯などを備えた防災広場も整備される計画です。

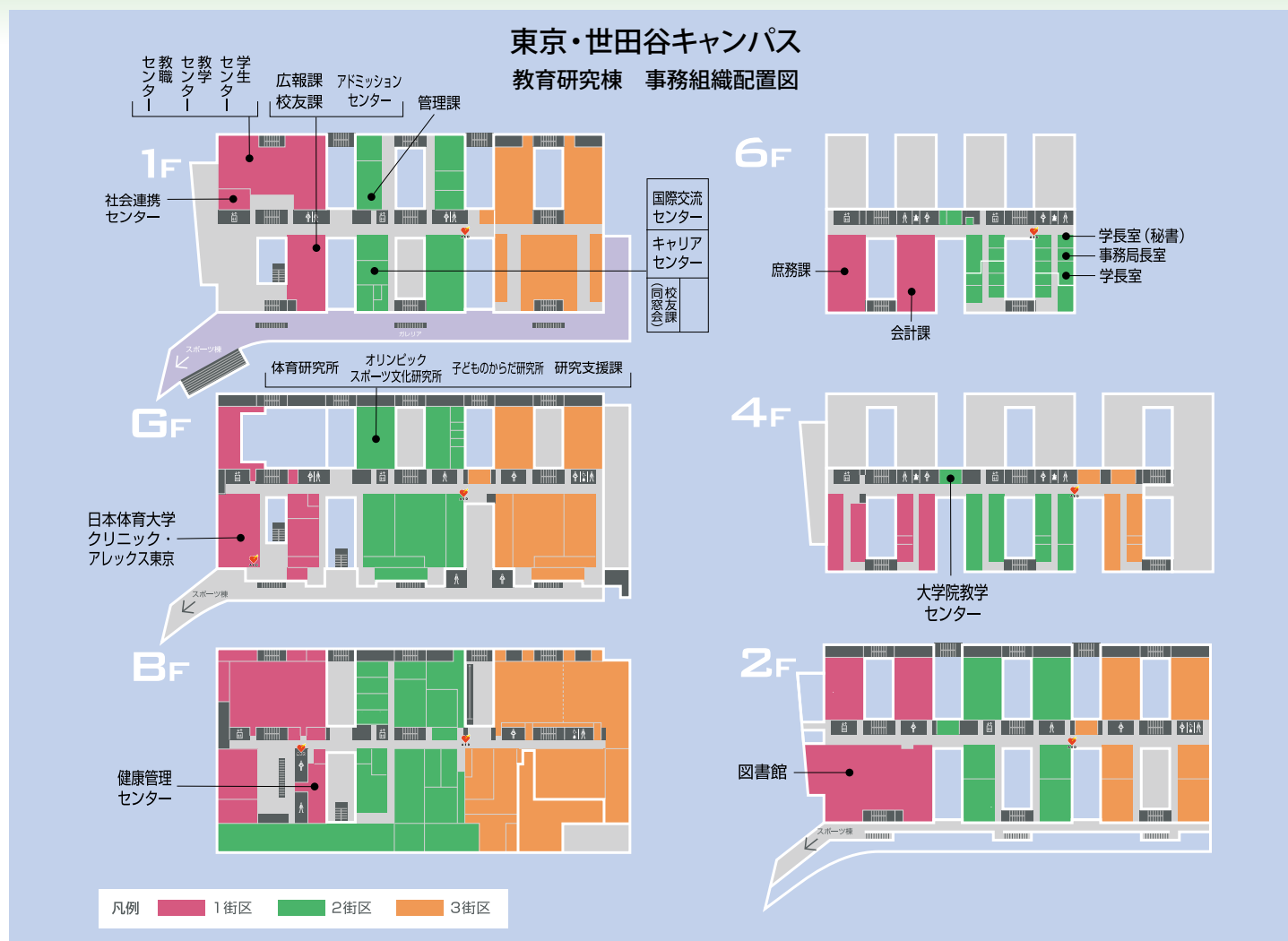
(新校舎の詳細は次号で紹介する予定です)

横浜・健志台キャンパスの新校舎「アカデミック・コア棟(仮称)」が竣工

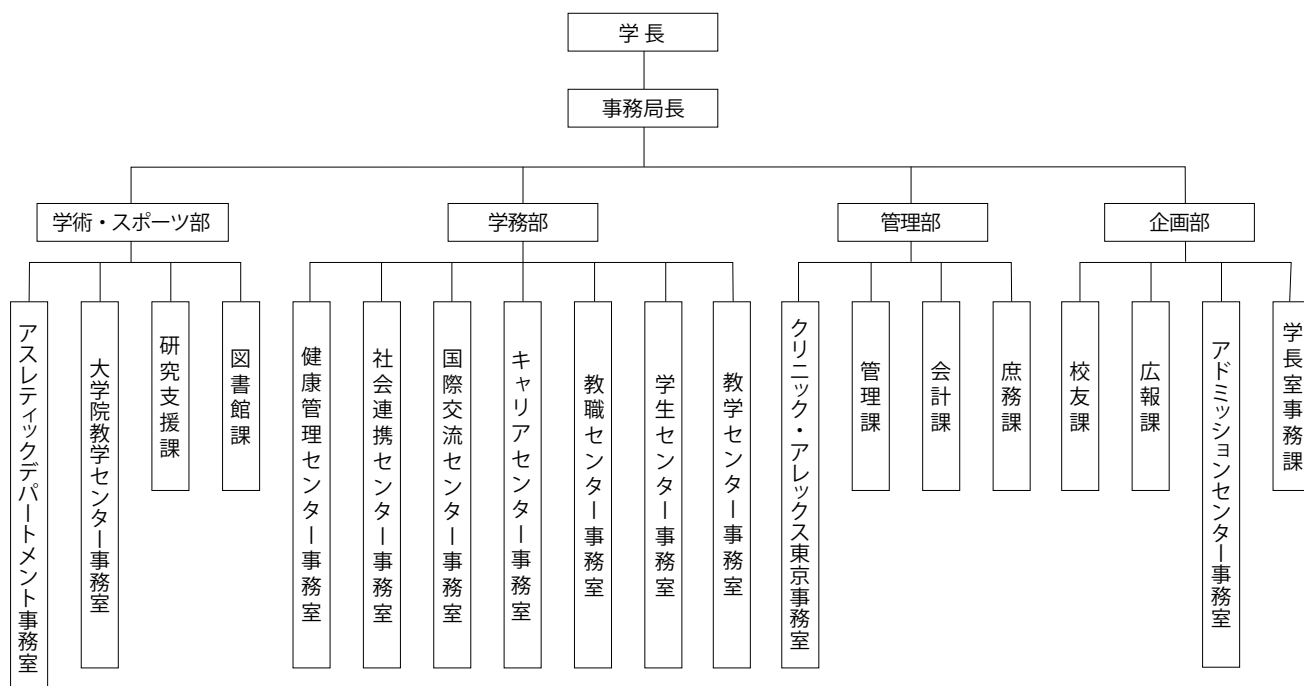
スポーツ・健康・地域貢献の拠点がさらに進化

さらに充実した体制・施設で学修や学成果をサポート

(横浜・健志台キャンパスの案内は次号で紹介する予定です)



事務組織



憧れの教育現場へ。大切なのは「教員になりたい」気持ち

仲間と切磋琢磨して、教員採用試験に合格した先輩たち。同じ夢を持つ後輩の皆さんへ、合格者からのメッセージとエールを紹介します。
子どもたちの笑顔があなたを待っています。

【令和6年度実施 教員採用試験合格者メッセージ】

安藤 真央 (あんどう まお)

児童スポーツ教育学部児童スポーツ教育学科
幼児教育保育コース
東京女学館高等学校出身



合格先
私立幼稚園

音楽や体を動かす楽しさを
子どもたちに伝えたい

日体大で学んでよかったこと：基本的な幼児教育の知識だけではなく、幼児の身体を中心に、運動あそびを多く学んだことです。また、保育実習・幼稚園実習の前に保育の現場体験を通じて、多くの子どもたちや保育者と関わることができたことです。

どんな教員になりたいか：私は幼児期からピアノを弾くこと、体を動かすことが好きだったため、保育者を目指しました。日体大で学んだことを活かし、歌を歌うことの楽しさや、運動あそびを通じて体を動かすことの楽しさを子どもたちに伝えたいです。また、行事などさまざまな活動を通して、子どもたちが楽しく登園できるように、クラス運営を行っていきたいです。

後輩へのメッセージ：実習や現場体験を通して出会う子どもたちの笑顔が何よりの励みになります。就職活動をする上で、上手いかわないこと、悩みなど困難な時期があると思いますが、将来あなたが出会う子どもたちの姿を思い浮かべながら、自分を信じて夢に向かって頑張ってください。

海老沼 初音 (えびぬま はつね)

体育学部健康学科
群馬県立館林女子高等学校出身



合格先
群馬県（小学校・中学校／養護）

児童生徒の思いを受け止め
信頼される養護教諭に

日体大で学んでよかったこと：看護臨床実習での学びです。この実習では、一人の命を救うために医師、看護師の方々がチームを組んで行動する姿に感動するとともに、学校現場では私が児童生徒の心と体を守る役割であると実感しました。チームとして行動することの大切さ、さまざまな患者さんとの向き合い方を学ぶことができました。

どんな教員になりたいか：保健室は児童生徒が唯一 SOS を出してくる場所だと思います。そのため、明るく笑顔で迎え入れ、児童生徒一人一人の思いをしっかり受け止め適切な対応ができる、児童生徒そして先生方からも信頼される養護教諭になりたいです。

後輩へのメッセージ：日体大は実習や教育に関する授業がとても充実し、たくさんの人との交流もあるため多くの学びができます。私は養護・保健体育の免許を取得し幼いころから目指していた教員になることができました。これは日体大での4年間の経験や学びがあったからだだと思います。大変なこともあると思いますが、自分の夢に向かって頑張ってください。

二川 寿孔 (ふたがわ じゅうく)

スポーツ文化学部スポーツ国際学科
東亜学園高等学校出身



合格先
東京都（小学校・中学校・高校／保健体育）

生徒とともに成長を続け
生徒の心を動かす教員に

日体大で学んでよかったこと：多くの教員養成プログラムを通して教員を目指す仲間と切磋琢磨できたことと応援してくれる仲間がたくさん出会えたことです。先輩、同級生、後輩から多くの刺激を受け、このような環境で学べたことはとても恵まれていたと思っています。教員を目指す際に応援してくれた仲間には感謝しています。

どんな教員になりたいか：生徒とともに成長し続け、感動や喜びを分かち合える教員になりたいです。私自身今後も学び続けなければならないと日々実感しています。生徒の心を動かせるよう日々生徒を見守り、気持ちに寄り添いながら指導できるよう精進します。

後輩へのメッセージ：夢や目標を達成するために本気で努力できる人は本当に格好良いと思います。自分の人生は自分で切り拓き、やりたいことを実現できるよう毎日を全力で過ごしてください。本気であればあるほどその夢や目標に近づいていきます。辛い時もあると思いますが、成長途上の証です。絶対あなたならできます。皆さんを全力で応援しています。

令和6年度実施 教員採用試験合格者 110名

【北海道・札幌市】

《特別支援》 1名

【岩手県】

《小学校》 1名

【山形県】

《特別支援》 1名

【福島県】

《中学校》 1名

【栃木県】

《小学校》 1名

【群馬県】

《養護》 1名

【埼玉県】

《小学校》 2名

《中学校》 2名

《高校》 1名

《特別支援》 2名

【千葉県・千葉市】

《小学校》 7名

【東京都】

《小学校》 25名

《小学校・中学校・高校》 21名

《養護》 1名

《特別支援》 7名

【神奈川県】

《小学校》 5名

《高校》 1名

《特別支援》 1名

【横浜市(神奈川県)】

《小学校》 3名

《中学校・高校》 2名

【川崎市(神奈川県)】

《小学校》 1名

《中学校・高校》 1名

【新潟県】

《特別支援》 1名

【島根県】

《小学校》 1名

【大分県】

《小学校・中学校・高校》 1名

【私立】

《幼稚園》 8名

《中学校》 1名

《中学校・高校》 2名

《高校》 8名

同窓会は学生たちの「今」と「将来」を全面的に支援しています

～日本体育大学同窓会 Nittai Alumni 紹介～

日本体育大学同窓会は、学生の皆さんの大学生活や就職活動を力強くサポートしています。

充実したネットワーク、絆の強さは、日体大生・OB・OGの誇りです。同窓会のサポートを積極的に活用して夢を実現するとともに、Nittai Alumniの一員として、社会に出てからも日体大スピリットを受け継いでいってください。

同窓会は頑張る日体大と日体生を全力で応援します。



日本体育大学同窓会
会長
高田 佳朗

日本体育大学同窓会は、全国47都道府県に50支部（北海道4支部）を有し、日体大ならではの強固な人脈・ネットワークを活かしながら、会員相互の親睦・研鑽を図るとともに、在学生への支援を行っています。

同窓会は、学生の皆さんの身近な支援者そして相談者として、学生生活の支援と就職活動のお手伝いを行っています。特に就職活動については、学生の皆さんの多くが民間企業へ就職をしている現在、教育実習や教員採用試験対策だけではなく、民間企業で活躍している同窓による就職支援も実施しております。

全国には600名を超える同窓の代表取締役がおります。スポーツ関係だけではなく多種多様な企業の代表取締役として活躍している同窓生が、皆さんの就職活動を支援してくれます。そして、出身地においても同窓生が地元への就職をサポートしてくれています。

また、学生生活についてもいつでも相談ができるよう「県人会」組織もありますので、どうぞ気軽に身近にいる同窓生に相談してみてください。先輩たちが皆さんを温かく迎えてくれるはず。そして、名脇役となって皆さんの人生を支えてくれるはず。

わが母校日本体育大学は、身体に纏わる文化と科学の総合大学として日々進化を続けています。皆さんの活動を支えることで、母校の発展に寄与しております。

多様化する現在、社会で求められている人材は、「自ら考え、計画・行動し、事を成し遂げるために常に努力し続けることのできる人」だと思います。日体生には、それが備わっています。これからの社会の中心で活躍していくのは、皆さんなのです。

そうした未来の日本のために、我々同窓会は皆さんを全力で応援していきます。

頑張れ！ 日体大！ がんばれ！！ 日体生！！

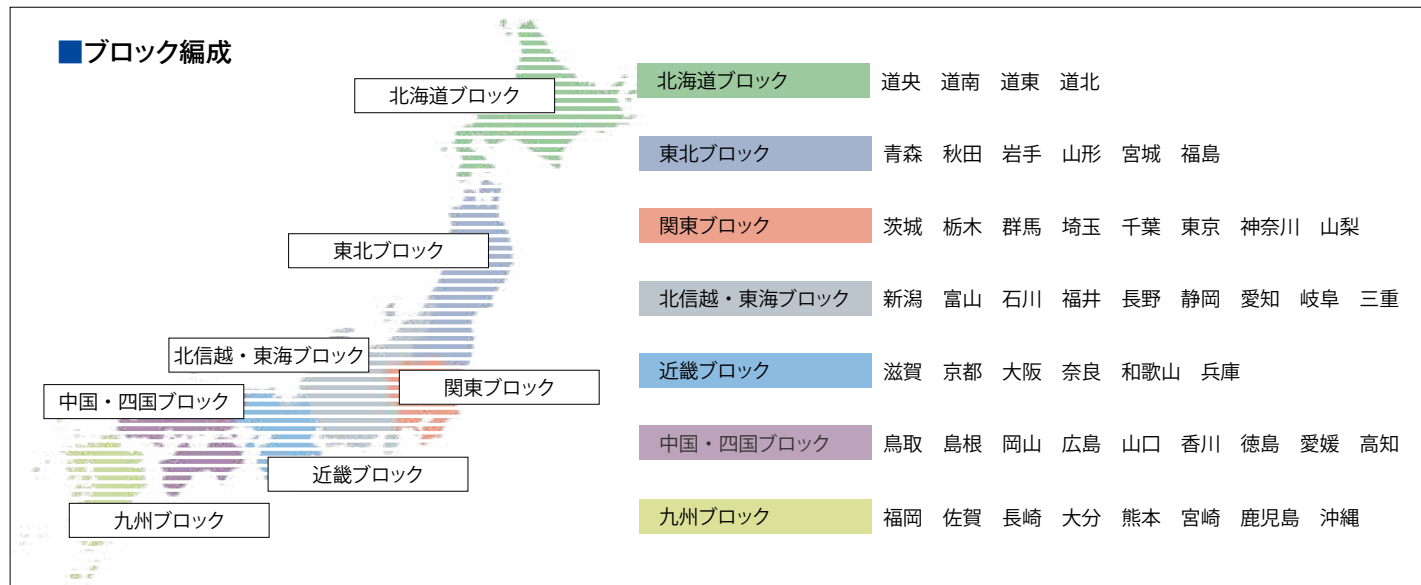


Nittai Alumni エンブレム紹介

コンセプト

「同窓会のシンボルマーク（體大・桜）」と「Nittai Alumni マスコット」を組み合わせたデザインです。リボン部分は荒波も表現しており、それをかき分ける同窓会を表現しています。二対の獅子は日体大と卒業生を見守るという意味合いで配置しており、全体として学生・卒業生の繁栄を願う気持ちを込めたデザインになっています（制作：同窓生・森達也氏）。

■ブロック編成



■令和7年度 入学試験結果

■日本体育大学大学院 体育学研究科

【入試データ】3月13日現在

【博士前期課程】 募集人員Ⅰ期＋Ⅱ期合わせて 37名

①体育科学学位プログラム＋体育実践学学位プログラム 25名

②コーチング科学学位プログラム＋コーチング実践学学位プログラム 12名

	学位 プログラム	コース	トップアスリート・クラブ 特別推薦入試		一般選抜		社会人選抜		外国人選抜		スポーツ選抜		志願者 合計	合格者 合計
			志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者		
Ⅰ期試験	体育科学学位 プログラム	体育スポーツ文化社会学コース	0	0	5	3	0	0	1	0	0	0	6	3
		スポーツマネジメントコース	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	1
		トレーニング科学コース	0	0	3	1	0	0	1	0	0	0	4	1
		健康スポーツ医科学コース	0	0	3	2	0	0	0	0	1	1	4	3
		身体教育・健康教育コース	0	0	4	3	1	0	0	0	0	0	5	3
	体育科学学位プログラム(合計)		0	0	15	9	2	1	2	0	1	1	20	11
	体育実践学 学位プログラム	スポーツマネジメントコース	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		身体教育・健康教育コース	-	-	0	0	0	0	0	0	0	-	-	0
	体育実践学学位プログラム(合計)		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	【博士前期課程 合計】		0	0	15	9	2	1	2	0	1	1	20	11
Ⅱ期試験	①体育科学学位プログラム		0	0	15	9	2	1	2	0	1	1	20	11
	②体育実践学学位プログラム		1	1	3	2	2	1	0	0	3	1	9	5
	コーチング科学学位プログラム		1	1	3	2	2	1	0	0	3	1	9	5
	コーチング実践学学位プログラム		0	0	3	1	1	1	0	0	2	2	6	4
	【博士前期課程 合計】		1	1	6	3	3	2	0	0	5	3	15	9
	①コーチング科学学位プログラム		1	1	6	3	3	2	0	0	5	3	15	9
	②コーチング実践学学位プログラム		0	0	3	1	1	1	0	0	2	2	6	4
	【博士前期課程 Ⅰ期合計】		1	1	21	12	5	3	2	0	6	4	35	20
	体育科学学位 プログラム	体育スポーツ文化社会学コース	0	0	2	1	1	1	1	1	0	0	4	3
		スポーツマネジメントコース	0	0	1	1	1	1	3	2	0	0	5	4
トレーニング科学コース		0	0	2	1	0	0	2	0	0	0	4	1	
健康スポーツ医科学コース		0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	
身体教育・健康教育コース		0	0	1	1	1	1	0	0	0	0	2	2	
体育科学学位プログラム(合計)		0	0	6	4	3	3	6	3	1	1	16	11	
体育実践学 学位プログラム	スポーツマネジメントコース	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	
	身体教育・健康教育コース	-	-	0	0	0	0	0	0	0	-	-	0	0
体育実践学学位プログラム(合計)		0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	
【博士前期課程 合計】		0	0	6	4	3	3	6	3	2	2	17	12	
①体育科学学位プログラム		0	0	6	4	3	3	6	3	2	2	17	12	
②体育実践学学位プログラム		1	1	3	1	3	2	0	0	1	0	8	4	
コーチング科学学位プログラム		1	1	3	1	3	2	0	0	1	0	8	4	
コーチング実践学学位プログラム		0	0	2	0	1	1	0	0	0	0	3	1	
【博士前期課程 Ⅱ期合計】		1	1	5	1	4	3	0	0	1	0	11	5	
①コーチング科学学位プログラム		1	1	5	1	4	3	0	0	1	0	11	5	
②コーチング実践学学位プログラム		0	0	2	0	1	1	0	0	0	0	3	1	
【博士前期課程 Ⅱ期合計】		1	1	11	5	7	6	6	3	3	2	28	17	
Ⅰ期＋Ⅱ期 博士前期課程 合計			2	2	32	17	12	9	8	3	9	6	63	37

【博士後期課程】 募集人員Ⅰ期＋Ⅱ期合わせて

①体育科学学位プログラム 6名

②コーチング科学学位プログラム 3名

Ⅰ期試験	学位 プログラム	コース		一般選抜	社会人選抜	外国人選抜	内部進学選抜	志願者	合格者	
				志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者	
	体育科学学位 プログラム	体育スポーツ文化社会学コース		0	0	0	0	—	0	
		トレーニング科学コース		1	1	0	0	0	—	
		健康スポーツ医科学コース		1	1	0	0	0	—	
身体教育・健康教育コース			0	0	0	0	0	—		
	体育科学学位プログラム(合計)			2	2	0	0	0	—	
	コーチング科学学位プログラム			0	0	0	0	0	—	
【博士後期課程 Ⅰ期合計】				2	2	0	0	0	—	
Ⅱ期試験	体育科学学位 プログラム	体育スポーツ文化社会学コース		0	0	1	1	0	0	
		トレーニング科学コース		1	1	1	1	0	1	
		健康スポーツ医科学コース		2	2	0	0	0	3	
		身体教育・健康教育コース		0	0	0	0	0	1	
		体育科学学位プログラム(合計)			3	3	2	2	0	5
		コーチング科学学位プログラム			1	1	0	0	0	1
【博士後期課程 Ⅱ期合計】				4	4	2	2	0	6	
Ⅰ期＋Ⅱ期 博士後期課程 合計				一般選抜	社会人選抜	外国人選抜	内部進学選抜	志願者	合格者	
			志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者
				6	6	2	2	0	6	6

【正規課程外】 研究生1名(コーチング科学学位プログラム)

■日本体育大学

学部	学科	区分	志願者数	志願者数 (女子)	受験者数	受験者数 (女子)	最終合格者数	合格者数 (女子)	競争率
体育学部	体育学科	総合型選抜	754	234	735	229	365	152	2.01
		学校推薦型選抜	488	146	488	146	475	145	1.03
		一般選抜	481	133	469	130	74	34	6.34
		その他	10	0	10	0	2	0	5.00
		合計	1,733	513	1,702	505	916	331	1.86
	健康学科	総合型選抜	125	89	123	87	115	83	1.07
		学校推薦型選抜	72	45	72	45	72	45	1.00
		一般選抜	118	50	115	50	51	26	2.25
		その他	2	0	2	0	1	0	2.00
		合計	317	184	312	182	239	154	1.31
スポーツ文化学部	武道教育	総合型選抜	36	15	34	15	22	11	1.55
		学校推薦型選抜	71	15	71	15	71	15	1.00
		一般選抜	3	1	3	1	2	1	1.50
		合計	110	31	108	31	95	27	1.14
	国際学科	総合型選抜	44	16	44	16	41	15	1.07
		学校推薦型選抜	64	18	64	18	50	17	1.28
		一般選抜	191	46	190	46	9	5	21.11
		その他	2	0	2	0	1	0	2.00
		合計	301	80	300	80	101	37	2.97
	合計		411	111	408	111	196	64	2.08
スポーツマネジメント学部	マネジメント学科	総合型選抜	283	86	279	85	80	47	3.49
		学校推薦型選抜	240	56	240	56	171	42	1.40
		一般選抜	263	68	256	67	11	5	23.27
		その他	4	0	4	0	1	0	4.00
		合計	790	210	779	208	263	94	2.96
	マスポーツライフ学科	総合型選抜	72	24	72	24	45	20	1.60
		学校推薦型選抜	84	25	83	25	69	22	1.20
		一般選抜	86	32	83	31	5	3	16.60
		合計	242	81	238	80	119	45	2.00
	合計		1,032	291	1,017	288	382	139	2.66
児童スポーツ教育学部	児童スポーツ	総合型選抜	82	39	78	39	66	35	1.18
		学校推薦型選抜	75	43	75	43	66	40	1.14
		一般選抜	76	35	75	34	4	2	18.75
		合計	233	117	228	116	136	77	1.68
	保育幼児教育	総合型選抜	37	28	37	28	20	19	1.85
		学校推薦型選抜	37	28	37	28	33	27	1.12
		一般選抜	8	7	8	7	3	3	2.67
		合計	82	63	82	63	56	49	1.46
	合計		315	180	310	179	192	126	1.61
保健医療学部	整復医療学科	総合型選抜	183	72	179	70	47	28	3.81
		学校推薦型選抜	71	25	71	25	47	20	1.51
		一般選抜	38	10	38	10	4	4	9.50
		合計	292	107	288	105	98	52	2.94
	救急医療学科	総合型選抜	127	29	126	29	62	23	2.03
		学校推薦型選抜	32	7	32	7	23	6	1.39
		一般選抜	33	8	33	8	4	1	8.25
		合計	192	44	191	44	89	30	2.15
	合計		484	151	479	149	187	82	2.56
	合計		4,292	1,430	4,228	1,414	2,112	896	2.00

■日本体育大学大学院 教育学研究科

博士前期課程(募集人員:20名/Ⅰ期・Ⅱ期合わせて)

教科		公募制推薦入試		一般選抜		社会人選抜		キャリア選抜		志願者	合格者
		志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者	合計	合計
推薦入試 公募制	国語科教育	0	0	-	-	-	-	-	-	0	0
	社会科教育	0	0	-	-	-	-	-	-	0	0
	算数科教育	0	0	-	-	-	-	-	-	0	0
	理科教育	0	0	-	-	-	-	-	-	0	0
	体育科教育	2	2	-	-	-	-	-	-	2	2
	公募制推薦入試 合計	2	2	-	-	-	-	-	-	2	2
Ⅰ期試験	国語科教育	—	—	0	0	0	0	0	0	0	0
	社会科教育	—	—	0	0	0	0	0	0	0	0
	算数科教育	—	—	0	0	0	0	0	0	0	0
	理科教育	—	—	0	0	0	0	0	0	0	0
	体育科教育	—	—	2	2	1	1	0	0	3	3
Ⅰ期試験 合計	—	—	2	2	1	1	0	0	3	3	
Ⅱ期試験	国語科教育	—	—	0	0	0	0	0	0	0	0
	社会科教育	—	—	0	0	0	0	0	0	0	0
	算数科教育	—	—	0	0	0	0	0	0	0	0
	理科教育	—	—	0	0	0	0	0	0	0	0
	体育科教育	—	—	0	0	2	2	0	0	2	2
Ⅱ期試験 合計	—	—	0	0	2	2	0	0	2	2	

Ⅰ期・Ⅱ期 博士前期課程 合計	公募制推薦入試		一般選抜		社会人選抜		キャリア選抜		志願者	合格者
	志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者	合計	合計
	2	2	2	2	3	3	0	0	7	7

令和7年度 日本体育大学 役職者一覧

【学長・副学長】

学長 石井 隆憲

(企画・管理・運営担当)

副学長 水野 増彦

(教学・学生生活担当)

副学長 八木沢 誠

(研究担当)

副学長 中里 浩一

【学長室＝内部質保証機関】

室長 近藤 智靖 (兼)

室長補佐 松浪 登久馬

【教学組織】

研究科長代表 関根 正美 (兼)

体育学研究科長 関根 正美

体育科学研究科長 関根 正美 (兼)

教育学研究科長 近藤 智靖

保健医療学研究科長 増野 智彦

体育学部長 野井 真吾

体育学科長 大本 洋嗣

健康学科長 横山 順一

体育学部長補佐 小林 正利 (兼)

体育学部長補佐 梶 規子

スポーツ文化学部長 岡出 美則

武道教育学科長 小嶋 新太

スポーツ国際学科長 金田 英子

スポーツマネジメント学部長 齊藤 隆志

スポーツマネジメント学科長 青柳 徹

スポーツライフマネジメント学科長 小泉 和史

児童スポーツ教育学部長 須永 美歌子

児童スポーツ教育学科長 稲田 結美

児童スポーツ教育コース主任 杉本 直美

幼児教育保育コース主任 佐藤 恵

保健医療学部長 中里 浩一 (兼)

整復医療学科長 久保山 和彦

救急医療学科長 増野 智彦 (兼)

保健医療学部長補佐 木村 直人

【附置機関等】

図書館長 内山 治樹

体育研究所長 中里 浩一 (兼)

オリンピックスポーツ文化研究所長 依田 充代

子どものからだ研究所長 野井 真吾 (兼)

アスレティックデパートメント長 西山 哲成

アスレティックデパートメント長補佐 横田 匡俊

ハイパフォーマンスセンター長 杉田 正明

コーチングエクセレンスセンター長 伊藤 雅充

スポーツ・トレーニングセンター長 黄 仁官

アスレティックトレーニングセンター長 河野 徳良

教学センター長 小林 正利

副センター長 関 芽

教職センター長 大塚 幹太

副センター長 門屋 貴久

大学院教学センター長 関根 正美 (兼)

学生センター長 北島 洋美

副センター長 米地 徹

キャリアセンター長 佐藤 浩

副センター長 森井 大治

健康管理センター長 橋本 典生

アドミッションセンター長 竹腰 誠

副センター長 福井 元

国際交流センター長 佐良士 茂樹

社会連携センター長 波多腰 克晃

寮監長 古澤 伸晃

日本体育大学クリニック・アレックス東京院長 平沼 憲治

(保健医療学部)

スポーツキウアセンター長 伊藤 譲

※令和7(2025)年4月1日現在

東大関 大の里が大相撲春場所で、3度目の優勝を果たしました！

令和7年3月23日(日)エディオンアリーナ大阪にて行われた大相撲 春場所、東大関 大の里(24)【本名 中村 泰輝・二所ノ関部屋所属・スポーツ文化学部武道教育学科卒】が12勝3敗で3度目の優勝を果たしました！

東前頭4枚目の高安関との優勝決定戦を制し、大関としては昇進後3場所目で初めての優勝です。

優勝3度は御嶽海関と並んで現役力士最多となりました。

現在、角界では大の里関以外にも多くの日体大を卒業した同窓力士が活躍しています。今後ともご声援の程よろしくお願いいたします。



日本体育大学 公式アプリ誕生

日体大の最新情報をゲットしよう！



フッシュ通知でお知らせ
限定フォトフレーム
食堂メニュー
n-pass ログイン など

→
ダウンロード

